



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

〒770-0812 徳島市北常三島町 2 丁目 34 番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

令和7年8月

43号

第34回 地域医療連携会 開催

7月24日にパークウエストンホテルにおいて、第34回徳島市民病院 地域医療連携会が開催されました。連携医関係の方々は96名、当院からは88名と過去最多の参加者数で、講演会場のボールルームは満席となりました。

総会では中野院長の挨拶の後、地域医療連携会 運営委員会で報告された当院の活動内容についての紹介が行われました。講演会では、山本 哲史 産婦人科総括部長 兼 地域周産期母子医療センター長から「徳島市民病院におけるこれからの産婦人科診療」として婦人科腫瘍手術におけるda Vinci手術やvNOTES（経膈腹腔鏡下手術）、全国的に高まったニーズに対応した無痛分娩につき詳細な報告が行われました。次いで、長谷 加容子 内科診療部長 兼 関節治療センター長から「関節リウマチの内科的治療」として、専門医の管理下に実施される免疫抑制薬や生物学的製剤での薬物療法につき多数の症例をあげての説明がありました。続いて、岸 史子 副院長 兼 臨床教育センター長から1年目の初期研修医7名が紹介され、今後の活躍にこれからの医療を託す思いでした。診療科紹介では各診療科の代表者が壇上に並び、一言ずつ挨拶しました。

懇親会は会場を3階アニエスルームに移し、三宅 秀則 病院事業管理者、宇都宮 正登 徳島市医師会長の挨拶の後、



三宅 秀則 病院事業管理者より懇親会開始の挨拶

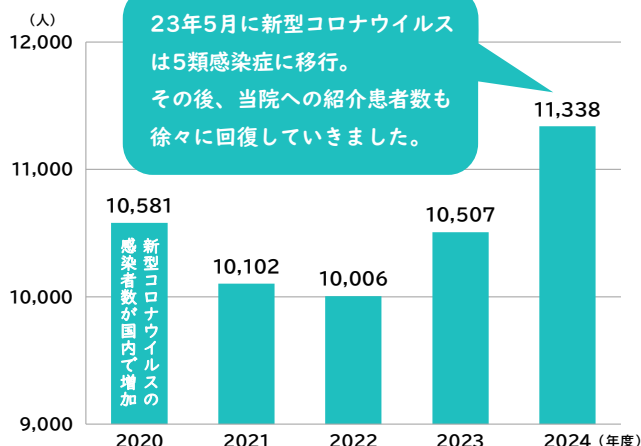
宮内 吉男 徳島市医師会副会長の乾杯で開始されました。普段なかなか会う機会のない連携医関係の方々と話すことができ、顔の見える関係を築いていく上でも、医療を連携していく上でも、有意義なものとなりました。会の半ばには仁木 博文 衆議院議員から厚生労働副大臣としてのご発言もありました。

懇親会では参加者が会場より溢れんばかりで、岡部 達彦 徳島市医師会常任理事の中締めの後も、その場に留まっていたの歓談が続きました。（副院長 田村 公一）



山本 哲史 産婦人科総括部長 兼 地域周産期母子医療センター長と長谷 加容子 内科診療部長 兼 関節治療センター長が登壇し講演

当院への紹介患者数



総括部長およびセンター長を拝命して

4月1日より、産婦人科総括部長および地域周産期母子医療センター長を拝命しました、山本 哲史です。

徳島市民病院の産婦人科は、従来より周産期医療、婦人科がん治療、一般婦人科疾患に対する低侵襲手術など幅広い診療を提供しています。地域周産期母子医療センターでは、母体合併症や早産未熟児などへの医療を提供し、徳島の周産期医療の中心的役割を果たしてきました。

令和5年7月からは硬膜外鎮痛を用いた無痛分娩を提供することとなり、妊婦さんの多様なニーズに対応できるようになってきており、当院での分娩を希望される妊婦さんの数も増加しています。令和5年9月には産婦人科でもロボット支援下手術が稼働しました。子宮良性疾患に対する子宮全摘術や骨盤臓器脱に対する仙骨腔固定術を導入し、ロボット支援下手術件数は増加傾向にあります。今後は子宮体



がんに対する腹腔鏡下手術にもロボット支援下手術を導入していく予定となっています。また、婦人科腫瘍に対する治療にも免疫チェックポイント阻害薬が本格的に用いられるようになり、今後治療法が大きく変化することが期待されます。

徳島市民病院の産婦人科は5人体制で必ずしも多くはありませんが、各医師が専門分野の知識を活かし共有することで、全ての患者さんに最新の医療を安心して受けていただけるよう一層努力してまいりたいと思います。関係者の皆様には、引き続きご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(産婦人科・地域周産期母子医療センター 山本 哲史)



リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025 とくしまに参加

異例の早さで梅雨開けした翌日の6月28日、猛暑の中でリレー・フォー・ライフ・ジャパン2025とくしまが無事開催され、私も十数年ぶりに参加しました。がん患者さんやそのご家族を支援し、がん医療に対する啓発、社会意識の向上をもたらすためのチャリティー活動で、リレーウォークやルミナリエセレモニー等が行われています。

今年で15回目の開催ですが、当院は初回より参加しております。以前には東新町アーケードを夜通し歩き、日が暮れるとルミナリエの灯りが印象的な情景の中、患者さんやご家族の描いたメッセージやイラストを見ながら疲れを忘れて歩いたことを思い出しました。今回はフラッグを新調し、スタッフ共々心機一転、参加させていただきました。

開会宣言後には中野院長より当院のがん診療、緩和ケア病棟について説示され、中盤は福森副院長がシンポジストとして「患者さんが医師に直接質問できない場合等には、患者支援センターを頼っていただければ、悩みや心配ごとを気軽に相談できるので、ぜひご利用ください」とお話しされ、患者さんも深く傾きながら聞いている様子でした。実行委員の方からは「徳島県のように行政やがん診療連携拠点病院が、沢山参加している県はほとんどなく、他県のサポーターの方々からは羨望的です」とご報告をいただきました。

院内の皆様には多大なるご寄付をいただき、誠にありがとうございました。来年もまたご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(患者支援センター 盛 佐知子)



新調されたフラッグとともにリレーウォーク



7月19日、第13回 市民病院まつりが開催されました。当日は雨が降る中での始まりとなりましたが、まつりの賑わいが増すごとに次第に晴れていきました。

福森副院長の開会宣言に始まり、こどもお薬教室、クイズラリー、バルーンアート展示、コンサートなど様々な催し物を前に、院内は来場者の笑顔と賑やかな声で溢れていました。私たち医事経営課が担当していたバザーでは、職員の皆さんからたくさんの品物を提供していただいたおかげで、昨年を大きく上回る売上となりました。

職員の方々の協力がなければ、今回の病院まつりの成功はなかったと思います。病院まつりは市民とのふれあい、そして職員同士の協調性の大切さを実感できる機会となり、よりよい病院を作っていくために必要なイベントだと改めて感じました。(医事経営課 續 敬介) ▼▶ 院内各所は大盛況で、約750人が来場した



第12回 アジア腹部放射線学会開催

このたび、6月27日から29日にかけて淡路夢舞台にて開催された、第12回アジア腹部放射線学会(The 12th Asian Congress of Abdominal Radiology)において、研究発表を行いましたのでご報告いたします。本学会は第38回 日本腹部放射線学会との合同開催であり、アジア各国から多くの方が参加され、大変盛大な国際学会でした。

私は、大会初日に“Increased the CT values of abdominal organs on contrast-enhanced CT with the Crossed Raised Arm Position”という演題で、体幹部造影CT検査における体位の工夫が造影コントラストの向上に寄与することを示した研究成果を発表いたしました。国際学会での発表は初めてであり、診療放射線技師は私だけという状況での発表に不安もありましたが、プレゼン内容は概ね伝わり、質疑応答では多数の質問もいただきました。中には十分に英語で答えきれない部分もあり、英語力の向上も今後の課題として努めていきたいと考えております。

また本学会を通じて、日本のみならずアジアの放射線科医の熱意と研究への真摯な姿勢に触れ、大いに刺激を受けました。このような貴重な機会をいただき、ご支援くださいました諸先生方に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。(放射線科 西山 由佳子)



会場に設置されたイメージパネル前にて

眉誠連 阿波おどり

8月15日、当院の愛好家有志で形成する「眉誠連」は、徳島県の伝統芸能である阿波おどりに参加させていただきました。有難いことに今年は去年よりも参加者が多く、総勢75名ほどとなりました。当院1階ロビーの演舞では、温かい手拍子で迎えていただき、深く感謝いたします。

熱気に包まれた新町橋演舞場や東新町商店街でも活気にあふれた踊りを披露でき、阿波おどりの最終日を盛り上げることができ嬉しく思います。来年も皆さまに楽しんでいただけるよう励んで参ります。(連長 寺澤 翠)



◆研修医日記◆

医師を目指すきっかけや今後の目標など、自由に語っていただくリレー企画です。

こんにちは。臨床研修医2年目の新居 拓朗と申します。徳島市出身の32歳です。

私は元々、工学部出身で公務員として働いていました。しかし、当時医学部に通っていた妹の、多種多様な医学専門書が面白く、沸々と医学への果てしない興味が湧き上がってしまったのです。その後、医師を目指し、新境地に挑む決意で4年間勤めた仕事を辞めて、徳島大学医学部で6年間学ぶに至りました。

そして、令和6年4月に辿り着いた徳島市民病院での研修です。頑張るしかありません。研修医としての今の目標は、まず基礎的な臨床スキルを確実に身につけることです。市民病院は和やかな雰囲気で施設も充実しています。このような恵まれた環境で研修できることに感謝しつつ、一步一步着実に歩んでいきたいと考えています。特に不安であった手技についても、繰り返し実践させていただくことで少しずつ自信がついてきました。指導医の先生方、メディカルの方々のご指導のおかげで、気付きと学びの連続です。

病院での研鑽の日々の中で、私のリフレッシュ方法は仕事終わりの休日に嗜むゲームです。幼稚園の先生からゲームのしすぎで目が赤いよ、と注意されて以降も、ポケモン、カービィ、マリオなどを経て戦略ゲーム等々、今でも幅広く攻略し気分転換は万全です。

これからの研修期間中も、初心を忘れず誠実な医師を目指して励んでまいります。まだまだ戸惑うことばかりで至らない点も多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願いいたします。

(初期臨床研修医 新居 拓朗)



初期研修医2年目の本田 萌と申します。徳島県出身でも、徳島大学出身でもないのですが、ご縁があって徳島市民病院で2年間の初期研修をすることになり、令和6年4月よりお世話になっております。

この場をお借りして、学生時代を振り返ってみますと、部活動として小学校では音楽クラブ、中学校では吹奏楽部、大学では吹奏楽団に所属し、音楽とは切っても切れない学生生活を送りました。大学生活の途中からはコロナ禍となり、団体活動が制限された時期もありましたが、今年はまたOGとして大学時代に所属していた吹奏楽団の練習に参加する予定です。コンクールなどには出たことがなく下手の横好きではあるのですが、働き始めてからも、そして今後も一生続けていける趣味があるのは幸せなことだと思います。

また、大学生活の途中からは劇団四季の観劇も趣味となり、これまでにライオンキングとオペラ座の怪人を観ました。とても感動したので、再度この2作品を観たいのですが、他の作品も観に行きたいと思っています。

さて、初期研修開始から早くも1年4か月が経ちました。初めは知り合いもおらず不安でしたが、市民病院はとても雰囲気が良く、働きやすい職場だと感じています。先生方はもちろん、看護師など他職種のスタッフの皆さまからも様々なことを教えていただきながら、毎日充実した研修生活を送っております。初めてのことばかりで、まだまだできないことや分からないことが多く、ご迷惑をおかけしてばかりですが、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

(初期臨床研修医 本田 萌)

